和歌山県立
日高高等学校
SGH通信
第１６号

2019年12月11日

2019 年度◆秋の記録◆

「世界津波の日」2019 高校生サミット in 北海道

世界各国の高校生が津波の脅威と対策を学ぶ場として２０１６年から開催されている「世界津波の日」高校生サミットが、今年は９月１０・１１日に北海道で開催されました。

本校からは２年生の玉置裕子さんと北又悠愛さんが出場し、分科会２「意識を高める～災害への備えと迅速な避難」においてディスカッションと発表を行いました。

活動を通して学んだこと

自分の言動に自信を持つこと、何事にも積極的であることの大切さ

２年１組　玉置　裕子

海外の高校生も日本の高校生も、自分に自信を持って参加している人が多いと感じました。それは、自分の英語力についてもそうでした。母国語が英語ではない人も、自分の英語に自信を持って、進んでディスカッションに参加していました。中には少し癖のある人もいましたが、私が発見したことは、自分から積極的に話をしている人には、２日間という限られた時間でもどんどん友達ができていたということです。

私自身、ディスカッションでは数回ですが自分から意見を言うことができました。その時、海外の人達は、私の英語を理解しようと真剣に耳を傾けてくれていました。また、質問もしてくれました。コミュニケーションが成立していることを実感できて、とても嬉しかったです。自信を持つこと、積極的に行動することが、英語への不安を取り除くことにつながるのだと思いました。

来年度参加する皆さんに伝えたいことは、初日から絶対に積極的に行動することと、発表の練習をたくさんしておくことです。練習をたくさんしておくことで発音への自信も持てるようになります。世界各国の高校生と防災について意見交換をする機会はなかなかありません。津波への意識もとても高まりました。海外の人達の英語力、発信力には驚かされましたが、英語でディスカッションをしたことはとてもよい経験になりました。